

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開実用新案公報 (U)

(11) 実用新案出願公開番号

実開平4-105590

(43) 公開日 平成4年(1992)9月10日

(51) Int. Cl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
H 0 5 K 7/12	W	8823-4E		
G 0 6 F 1/26				
H 0 1 M 2/10	B	7356-4K 7832-5B	G 0 6 F 1/00	3 3 1 A

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全 2 頁)

(21) 出願番号 実願平3-15824

(22) 出願日 平成3年(1991)2月25日

(71) 出願人 000001487

クラリオン株式会社

東京都文京区白山5丁目35番2号

(72) 考案者 原 和巳

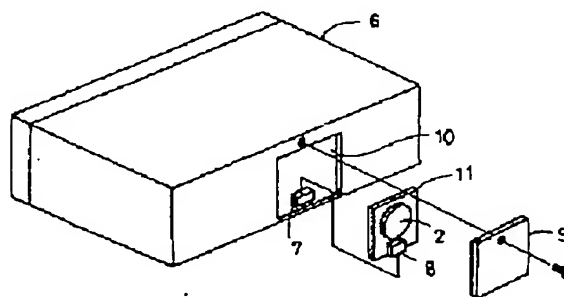
東京都文京区白山5丁目35番2号 クラリ
オン株式会社内

(54) 【考案の名称】 電子機器のメモリーバックアップ用電池取付構造

(57) 【要約】

【目的】 電子機器のメモリーバックアップ用電池の交換を容易にし、且つ無駄な電池消費を避ける。

【構成】 コネクターを介して電子機器本体のメイン基板へ電池基板を着脱自在に接続可能とした。



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 電子機器において、メモリーバックアップ用電池を回路パターンを施し且つコネクタを有する電池基板へ電気的に接続固定し、該電池基板を電子機器内に設けられたメイン基板のコネクタに着脱自在に取り付けられることを特徴とした電子機器のメモリーバックアップ用電池取付構造。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本考案の取付を示す概要図である。

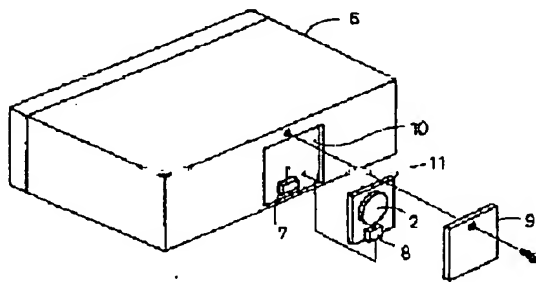
【図2】 本考案の電池基板とメイン基板の取付関係を示す説明図である。

【図3】 従来技術を示す説明図である。

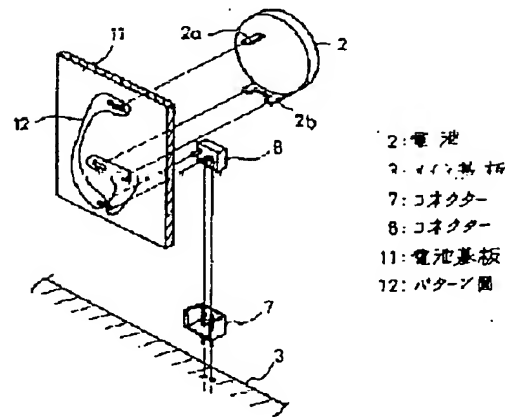
【符号の説明】

- 2 メモリーバックアップ用電池
- 3 メイン基板
- 6 電子機器
- 7 コネクタ
- 8 コネクタ
- 11 電池基板

【図1】

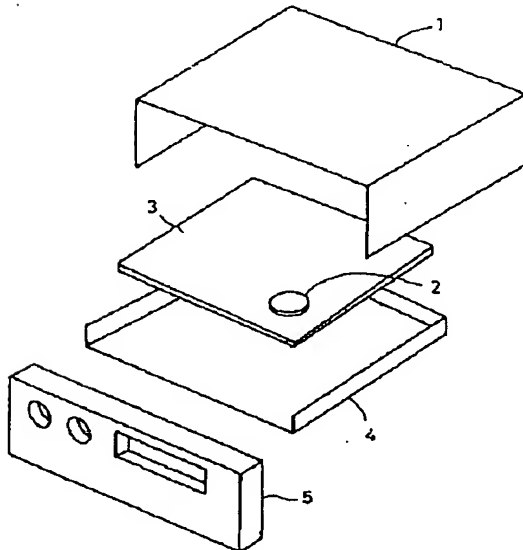


【図2】



- 2: 電池
- 2a: 電池端子
- 2b: 電池端子
- 7: コネクタ
- 8: コネクタ
- 11: 電池基板
- 12: パターン面

【図3】



- 1: アッパーケース
- 2: 電池
- 3: メイン基板
- 4: ロアケース
- 5: エスカッション

【考案の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】

本考案は電子機器などにおけるメモリーバックアップ用電池取付構造に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

従来はバックアップ用電池は電子機器内のメイン基板に直接取り付けられていた。図3で例示されるように、電子機器の構成はアッパーケース1、メモリーバックアップ用電池2が取り付けられたメイン基板3、ロアーケース4、及びエスカッション5等となっている。その他の機器内部における詳細な構成はここでは省略する。

【0003】

前記したように、メモリーバックアップ用電池2はメイン基板3に直接半田付けされているため、電池交換の際、ケース及びエスカッション等を取り外して更に基板より半田ごてを使って電池を取り外さなければならなかった。

この取外し作業は一般のユーザーにおいて、行ないがたく電池交換が不可能といっても過言ではない。

また、多くの電子機器は海外に輸出されており、特に該メモリーバックアップ用電池を使用する電子機器においては、メモリーバックアップ用電池を基板に付けままで、遠い各国へ輸出されるため、その長い輸送期間中に該電池が消耗してしまい、電子機器が外国ユーザーの手に渡ってからのその電池の寿命は短くならざるを得なかった。

【0004】

【考案が解決しようとする課題】

本考案は上記事情に鑑みなされたもので、電子機器のメモリーバックアップ用の電池を小基板に取り付け、その交換の際に、電子機器の裏蓋を外して電池を小基板ごと交換できるように構成した電子機器のメモリーバックアップ用電池取付構造を提供することを目的とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】

上記目的を達成するために、本考案のメモリーバックアップ用電池取付構造は電池を回路パターンを施し且つコネクタを有する電池基板へ電氣的に接続固定し、該電池基板を電子機器内に設けられたメイン基板のコネクタに着脱自在に取り付けられるようにしたものである。

【0006】

【作用】

メモリーバックアップ用電池は基板3のコネクタを介し、電子機器内のメイン基板のコネクタへしっかりと電氣的に接続され、またこの着脱自在構成はその交換作業を向上させる。

【0007】

【実施例】

以下、本考案の実施例を図面を参照して説明する。図1及び図2は本考案に基づく実施例を示すものである。

【0008】

図1は本考案の取付を示す概要図で、電子機器6の裏面側には開口部10が設けられ、メモリーバックアップ用電池2を備えた基板11が、そのコネクタ8を介し、メイン基板上にあるコネクタ7へ接続される様子を示している。

そして、これらの設置後は蓋部9によりビス等で開口部10を閉じる。

【0009】

図2はメモリーバックアップ用電池2と基板11との取付関係及び該基板11とメイン基板3との取付関係等を示す概要図である。

メモリーバックアップ用電池2はその電極2a、2bをパターン面12へ半田付けすることにより、基板11に固定される。基板11にはコネクタ8がパターン面に電氣的に半田付け等より固定され、メイン基板3にはコネクタ7も電氣的に半田付け等により固定されている。よって、基板11はコネクタ8を介してコネクタ7で連結され、メイン基板3に接続される。

【0010】

【考案の効果】

以上説明したように、本考案の電子機器のメモリーバックアップ用電子機器取付構造によれば、着脱自在構造をとっているので、その電池の交換はだれでも容易にでき、従来の電池交換のための配線や半田を外す必要がないので、その作業による故障などの発生が免れる。

また、本考案によればユーザーに電子機器が渡る際の直前に、この電池を取付けることが可能となったので電池の無駄な消耗が改善される。